

**【第4分科会】 知性・創造性
研究課題 知性・創造性を育むカリキュラム・マネジメント**

1 分科会の趣旨

【研究課題の背景・現状】

- ◇子どもたちの現状や課題を踏まえつつ、時代の変化をしっかりと見極め、必要な学習内容を子どもたちはどのように学び、どのような資質・能力を身に付け、何ができるようになるのかを明確にしていくことが重要になってくる。
- ◇教育の内容等を教科等横断的視点で組み立て、人的または物的な体制を確保するとともに、実施状況を評価し、改善を行っていくカリキュラム・マネジメントの実現が求められる。

【研究課題解決の方向性】

- ◇しなやかな知性と豊かな創造性の育成、そして、新しい社会を切り拓く子どもを育てるための各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントについて明らかにする。

過去6大会の成果
と前年度の課題

背景・現状を踏まえて、具体的方策と成果を明らかにする

2 研究の視点

(1) しなやかな知性と豊かな創造性の育成

- ・子どもたちには、現代の変化を柔軟に受け止め主体的に関わり合い、自分なりに試行錯誤したり多様な他者と協働したりして、課題解決を図り、よりよい社会と幸福な人生の創り手となることが求められる。
- ・子どもたちの現状や課題、社会の在り方や時代の変化を見据えながら、育成すべき資質・能力を明確にし、確実に育むことができるような学習指導や評価を工夫する必要がある。

(2) 新しい社会を切り拓く子どもを育てるカリキュラム・マネジメント

- ・子どもたちに求められる資質・能力を社会と連携及び協働しながら育成していく「社会に開かれた教育課程」を編成する。
- ・教科等横断的な視点による教育内容の組織的配列、教育内容の質の向上に向けたPDCAサイクルの確立、人的・物的資源等の効果的な活用など、教育効果の最大化を図るためのカリキュラム・マネジメントを実現し学校全体で取り組んでいく。

3 「校長の果たすべき役割と指導性を究明する」ための協議の柱

- ① しなやかな知性と豊かな創造性をどう育成するか。
- ② 新しい社会を切り拓く子どもを育てるカリキュラム・マネジメントをどう実現するか。

第4分科会 「知性・創造性」知性・創造性を育むカリキュラム・マネジメント

【視点①】 しなやかな知性と豊かな創造性の育成

「『生きる力』を育む学習指導と校長の指導性について」

京都府 城陽市立寺田小学校 校長 田村 正秀

1 趣 旨

学校には、子どもたち一人一人の可能性を伸ばし、新しい時代に求められる資質・能力を明確にし、確実に育成することが求められている。そのためには、校長は社会に開かれた教育課程を実現するためのカリキュラム・マネジメントを進め、幅広い視野で教育活動を創造していかなければならない。それは日々の子どもの学習活動で確実に展開され、常に子どもの実態や成果・課題を基に評価・改善することが必要である。そして、その営みが、「しなやかな知性と豊かな創造性」の育成につながると考える。

2 研究の概要

- (1) 有機的な学習活動を推進するための校長としての基本的な考え方
- (2) 「生きる力」を育むための学習活動と校長の指導性

以上のような内容で、校内での学習活動を推進する際の校長としてのビジョンを整理し、「教員の指導力の向上と研究体制の確立」と「学習活動の連動」について具体例を挙げ、校長の指導性を明らかにする。

<メモ>

【発表内容に関すること】

【自己の実践等に関すること】

○有効な取組

○疑問・改善

◇「校長の役割と指導性」について、協議内容を簡潔にまとめると…【キーワードかキーセンテンスで】

☆参考キーワード

社会に開かれた教育課程 指導力の向上 主体的・対話的な学習活動
学力向上と地域・家庭との連携

【視点②】 新しい社会を切り拓く子どもを育てるカリキュラム・マネジメント

「新たな知を育むカリキュラム・マネジメントを目指して」

青森県 青森市立造道小学校 校長 竹内 慎

1 趣 旨

これからの社会を子どもたちが社会的・職業的に自立し、たくましく生き抜いていくためには、その変化に主体的に向き合い、関わり合い、持てる力を結集して協働的・創造的に解決していこうとする力を身に付けていくことが求められおり、本市の小学校においても子どもにそのような力を育むカリキュラム・マネジメントはどうあればよいか課題となっている。

そこで、本市小学校長会教育課程部会は、各校が抱える本分科会の視点に係る課題を集約し、それを基に解決に向けた協議や取組事例を示すことで校長の役割と指導性を明らかにできればと考えた。

2 研究の概要

- (1) 本市の取組状況等について
- (2) 「新たな知」を育むカリキュラム・マネジメントの取組事例について
- (3) 校長の指導性と役割について

以上のような内容で、アンケートによる本市の取組状況や教育課程編成上で留意していきたいこと、小中学校の連携を生かした「新たな知」を育む取組事例、成果や課題を含めた校長の指導性と役割について発表する。

<メモ>

【発表内容に関すること】

【自己の実践等に関すること】

○有効な取組

○疑問・改善

◇「校長の役割と指導性」について、協議内容を簡潔にまとめると…【キーワードかキーセンテンスで】

☆参考キーワード

実態に即した目標設定 組織づくり 学習活動の工夫・改善 評価 教職員の意識改革
9年間を見通した教育課程

過去6大会の成果と前年度の課題

領域Ⅱ 教育課程 第4分科会 知性・創造性

25 三重 大会	<p>研究課題 知性・創造性を育む教育課程 視点1 しなやかな知性と豊かな創造性の育成 視点2 しなやかな知性と豊かな創造性を育む教育課程の編成・実施・評価・改善 <input type="checkbox"/>「新たな知を拓く」ための資質や能力につながる「しなやかな知性と豊かな創造性」ということについて議論が深まった。 <input type="checkbox"/>目指すゴールを共有することで、職員の中に同僚性や指導性が生まれ、組織として動く体制が整うことを確認できた。</p>	
26 埼玉 大会	<p>研究課題 知性・創造性を育む教育課程の編成・実施・評価・改善 視点1 これからの社会を生き抜くための学力を育む教育課程の編成・実施・評価・改善 視点2 共に生きる知恵を磨き、高め合う教育活動の創造・推進 <input type="checkbox"/>思考力・表現力の向上には、学習規律の定着、言語活動の充実などを指導計画にしっかり位置付け、取り組むことの大切さが明確になった。 <input type="checkbox"/>特色ある教育課程の充実には、人間関係を深め、教職員の資質向上と意識改革が重要であることが明確になった。</p>	
27 山口 大会	<p>研究課題 知性・創造性を育むカリキュラム・マネジメント 視点1 「新たな知を拓く」教育課程の工夫 視点2 自らの生き方に自信をもち、志を抱く教育活動の推進 <input type="checkbox"/>アンケートによる実態把握や視覚化されたグランドデザインなど、積極的な働きかけで、教育課程編成時の課題の共有が促された。 <input type="checkbox"/>校長のリーダーシップが直接指導と後方支援で発揮され、授業の充実に向けた教職員の協働体制が深まった。</p>	
28 高知 大会	<p>研究課題 知性・創造性を育むカリキュラム・マネジメント 視点1 「新たな知を拓く」教育課程の工夫 視点2 豊かな未来社会の創造に挑む子どもを育てる教育課程の編成・実施・評価・改善 <input type="checkbox"/>教職員のモチベーションを持続させるためのベクトル合わせ、保護者・地域への十分な説明・情報発信などの重要性が確認できた。 <input type="checkbox"/>主体的・対話的で深い学びの視点から、学習過程の改善や授業力の向上に取り組むことによって、児童の確かな学力や主体性、自己有用感につながった。</p>	
29 佐賀 大会	<p>研究課題 知性・創造性を育むカリキュラム・マネジメント 視点1 「新たな知を拓く」教育課程の工夫 視点2 未来社会に貢献できる子どもを育てるカリキュラム・マネジメント <input type="checkbox"/>校長の着眼点や発想、各学校の主体性による創意工夫があってこそ、人間としての総合力として育むべき、子どもたちの「学ぶ力」が高まることについて、改めて実践研究及び共通理解が図られた。 <input type="checkbox"/>校長の役割と指導性について、その重要性を改めて確認することができた。校長は教育委員会や地域との連携を推進することで、学校の活性化を図ることができた。</p>	
30 北海道 大会	<p>研究課題 知性・創造性を育むカリキュラム・マネジメントと校長の在り方 視点1 しなやかな知性と豊かな創造性の育成 視点2 しなやかな知性と豊かな創造性を育む教育課程の編成・実施・評価・改善</p> <p style="text-align: center;">成 果</p> <p><input type="checkbox"/>教職員の納得と必要感等を生み出す経営ビジョンの重要性が認識され、共有化が図られていること。 <input type="checkbox"/>ミドルリーダーを中心とした組織的・協働的な取組が展開され始めてきていること。</p>	<p style="text-align: center;">課 題</p> <p>■見通しを共有しカリキュラム・マネジメントを確実に進めるためのシステム等を作り、定着させることが必要であること。 ■校長としての構想力、実行力等を発揮し、カリキュラム・マネジメントの実現を一つ一つ丁寧に積み上げていくこと。</p>

(各大会の集録より一部引用)